

君津中央病院企業団
第3次3か年経営計画
(平成26年度達成状況)
(計画期間の達成状況)

君津中央病院企業団

1	第3次3か年経営計画の概要	1 ページ
2	主要施策の達成状況等	1 ページ
3	個別施策の項目別達成状況等	4 ページ
4	財務計画の達成状況等	5 ページ
5	財務計画の達成状況等の具体的な数値等	6 ページ
6	経営改革委員会の評価	6 ページ
	別表	7 ページ
	[用語解説]	18 ページ
	財務計画の達成状況	19 ページ
	経営改革委員会の評価	30 ページ

1 第3次3か年経営計画の概要

本計画は、君津中央病院企業団の位置付け、進むべき方向を明らかにし、将来にわたり持続可能な事業及び地域の皆様に安心して必要とされる病院づくりを目指すために策定した、平成24年度から26年度までの3か年経営計画です。

2 主要施策の達成状況等

(1) 経営指標に係る数値目標の達成状況 (単位：%)

区分		24年度 (目標値)	達成状況	達成率
病床利用率	本院	87.0	86.1	99.0
	分院	91.7	90.8	99.0
経常収支比率	本院	100.2	103.1	102.9
	分院	100.1	101.5	101.4
医業収支比率	本院	95.0	98.1	103.3
	分院	98.4	99.6	101.2
職員給与費比率 (対医業収益比)	本院	58.1	55.7	104.1
		48.3	45.1	106.6
	分院	71.8	73.3	97.9
		53.4	54.1	98.7
材料費比率 (対医業収益比)	本院	25.8	26.3	98.1
	分院	11.7	12.2	95.7

区分		25年度 (目標値)	達成状況	達成率
病床利用率	本院	87.7	83.5	95.2
	分院	91.7	86.6	94.4
経常収支比率	本院	100.1	100.2	100.1
	分院	100.1	99.2	99.1
医業収支比率	本院	94.8	95.3	100.5
	分院	98.4	94.8	96.3
職員給与費比率 (対医業収益比)	本院	58.3	57.1	102.1
		48.4	46.5	103.9
	分院	73.0	77.9	93.3
		54.3	57.0	95.0
材料費比率 (対医業収益比)	本院	25.7	26.5	96.9
	分院	11.8	11.5	102.5

区分		26年度 (目標値)	達成状況	達成率
病床利用率	本院	87.7	83.6	95.3
	分院	91.7	90.1	98.3
経常収支比率	本院	99.6	99.1	99.5
	分院	100.1	106.6	106.5
医業収支比率	本院	94.4	95.2	100.8
	分院	98.6	97.3	98.7
職員給与費比率 (対医業収益比)	本院	58.5	56.7	103.1
		48.7	45.8	106.0
	分院	73.2	75.9	96.3
		54.4	54.5	99.8
材料費比率 (対医業収益比)	本院	25.6	26.5	96.5
	分院	11.7	12.1	96.6

※職員給与比率の下段の額は、給与費から賃金分を除いた額での比率です。

(2) 主要施策の達成状況及び取組を要する項目

(計画期間：平成24年度～26年度)

I 医療機能の充実

本施策は、3つの中項目及び13の小項目から成り、各項目の取組状況については、次のとおりです。

中項目「1 人材の充足」については、「医師の確保推進」では、平成26年度末の正規職員医師数は103人となり、概ね目標を達成することができました。今後も、大学医局等への医師派遣交渉の取組を一層強化し、医師の確保に努めます。「看護師の確保推進」では、3か年の取組の結果、看護職員数を30人増員することができたものの、目標の実働看護職員数は達成することができませんでした。今後も、看護職員の募集活動を一層強化するとともに、離職防止に努めます。「技士等の確保推進」では、早期に採用試験を実施したことで、多くの人材を確保することができました。これにより、検査件数の増加や医師・看護師の業務負担軽減等を図ることができました。また、理学療法士を大幅に増員したことで、平成25年7月より土曜日のリハビリテーションを開始することができました。「人材の育成」では、新看護学校校舎は、平成26年3月に完成し、4月に63人の新入学生を迎え入れました。また、新学生寄宿舎は、平成28年3月の完成を予定しております。「職場環境の整備」では、新たに職員駐車場148台分を増設しました。また、院内セキュリティの強化として、病棟を含めた入退室管理を平成27年3月より開始しました。

中項目「2 不足する医療機能の充足」については、「需要が増加する医

療機器等の増設」では、当初計画のとおり概ね目標を達成することができました。「診療棟の増築」では、「手術部門の拡張」との一体事業として平成27年2月に業務委託契約を締結した「君津中央病院企業団病院事業施設整備基本計画等策定業務」（以下「基本計画等策定業務」といいます。）の中で検討していきます。「電子カルテシステムの導入」では、当初計画のとおり平成25年11月に稼働しました。

中項目「3 新たな医療機能の拡充」については、「医療安全の強化」では、バーコード3点患者認証システムやインシデント管理システムを導入し、医療安全対策の強化を図りました。「小児医療の充実」では、日本内分泌学会認定教育施設（小児科）として認定されました。「介護老人保健施設の設置」及び「回復期リハビリテーション施設の設置」では、基本計画等策定業務の中で引き続き検討していきます。

II 医療サービスの向上

本施策は、3つの中項目及び15の小項目から成り、各項目の取組状況については、次のとおりです。

中項目「1 体制の充実」については、「地域医療センターの強化」及び「救命救急センターの充実」では、目標を達成することができました。「休止している病床の再稼働」及び「外来・入院の包括看護体制の拡充」では、目標の実働看護職員数に達しなかったことから、両施策ともに実施には至りませんでした。「退院及び退院後支援体制の充実」では、オーラルヘルスケアの実施により退院後の生活の質を向上させることを目的として、院内外向けの勉強会を開催し、院内においては医科と歯科との連携を充実させ、また、地域歯科医師会とは口腔ケア病診連携体制の構築を進めています。「診療待ち時間の改善」では、対策として医師事務作業補助者の配置及び検査予約コーナーの増設等を行いました。「災害時等医療体制の見直し」では、平成24年度、26年度に開催されたアクアラインマラソンに合わせて大規模災害を想定した初動訓練を実施しました。また、災害医療体制整備事業補助金を活用し、災害時備蓄品を整備しました。

中項目「2 施設機能の維持」については、「建物・設備の経年劣化した箇所の修繕」では、ボイラー更新工事は、当初計画のとおり5台の更新が完了しました。「施設設備の更改及び見直し」では、汚水経路の接続換えは、烏田1号幹線接続ルートに確定し、平成27年度内の完成を予定しています。「医療機器の更新」では、平成24年度にCT2台の更新、25年度にMRI1台の更新及びアップグレード1台、26年度にSPECT-CTの更新を行いました。「分院としての施設・機能の見直し」では、平成25年6月の君津中央病院企業団議会議員全員協議会において、大佐和分院施設整備基本方針が承認され、その後、企業団内外での協議を経て、基本計画等策定業

務の中で引き続き検討していくこととなりました。

中項目「3 病院機能評価の受審」については、「患者満足度調査の実施」では、病院利用者の意見や要望並びに満足度について把握することができ、これを基に医療サービスの向上を図ります。「医療図書室の設置」では、平成24年10月に患者図書室として開設することができました。

Ⅲ 経営効率化の推進

本施策は、3つの中項目及び6つの小項目から成り、各項目の取組状況については、次のとおりです。

中項目「1 診療報酬の対策強化とDPCデータの活用」については、「各種加算の取得」では、新規施設基準として、平成26年4月に総合入院体制加算を、上位施設基準として、25年4月に医師事務作業補助体制加算1.5対1を、26年10月に急性期看護補助体制加算2.5対1を、これら3つの大幅な増収となる施設基準を取得しました。「診療報酬査定減の対策強化」では、3か年を通して査定率が0.05ポイント減少しました。「DPCデータの活用」では、DPC医療機関別係数が上昇したことで増収を図ることができました。また、今後も、平成28年度診療報酬改定に向けて、DPCⅡ群病院の要件を取得するための取組を継続していきます。

中項目「2 経費の合理化」については、「変動費の合理化」では、薬品費は、経営改善プロジェクトの取組により、平成26年度に目標値引率を達成することができました。診療材料費は、購入価格の見直しを行うことで経費の合理化に努めました。光熱水費は、ガス使用量は削減目標を達成したものの、電気使用量は削減目標を達成することができませんでした。今後も経費縮減に対する取組を強化します。

中項目「3 未収金対策の強化」については、「未収金回収の強化」では、平成24年度から法律事務所へ未収金回収業務を委託しました。未収金回収業務委託件数（平成24年度からの累積件数）は255件となり、約1,100万円を回収することができました。また、「患者情報共有化の推進」では、現場スタッフ、MSWの経済的問題への早期対応及び支援体制の強化により、26年度末の未収金残高については、計画当初に比べ、約4,300万円減額することができました。今後も引き続き未収金の発生防止及び回収強化に努めます。

3 個別施策の項目別達成状況等

「医療機能の充実」、「医療サービスの向上」及び「経営効率化の推進」の各項目の詳細については、別表（7ページから17ページまで）のとおり取り組みました。

4 財務計画の達成状況等

(1) 財務計画の達成状況等（平成26年度）

平成26年度の財務計画は、次のような結果となりました。

業務量においては、本院は、入院延患者数は計画数211,700人に対し、決算数201,808人、1日平均入院患者数は計画数580人に対し、決算数553人、外来延患者数は計画数297,680人に対し、決算数281,588人、1日平均外来患者数は計画数1,220人に対し、決算数1,154人となり、いずれも計画を下回りました。分院も、計画を下回り、入院延患者数は計画数12,045人に対し、決算数11,835人、1日平均入院患者数は計画数33人に対し、決算数32人、外来延患者数は計画数53,680人に対し、決算数47,263人、1日平均外来患者数は計画数220人に対し、決算数194人となりました。

収益的収支計画においては、本院の経常損益は計画額7,100万円の損失に対し、決算額は1億6,800万円の損失、分院の経常損益は計画額100万円の利益に対し、決算額は4,400万円の利益となりました。

資本的収支計画においては、収入から支出を引いた資金不足額が計画額12億7,300万円に対し、支出予算を執行したうえでの資金不足額は、21億1,900万円となりました。

内部留保資金の計画においては、損益勘定留保資金の翌年度繰越額は計画額27億400万円に対し、決算額は13億700万円となりました。

経営指標においては、本院は医業収支比率、職員給与比率において良好な結果を示し、分院は経常収支比率において良好な結果を示しました。

(2) 財務計画の達成状況等（計画期間：平成24年度～26年度）

計画期間の財務計画は、次のような結果となりました。

業務量においては、本院は、入院延患者数は計画数633,275人に対し、決算数610,943人、1日平均入院患者数は計画数578人に対し、決算数558人、外来延患者数は計画数886,920人に対し、決算数864,175人、1日平均外来患者数は計画数1,210人に対し、決算数1,179人となり、いずれも計画を下回りました。分院も、計画を下回り、入院延患者数は計画数36,135人に対し、決算数35,151人、1日平均入院患者数は計画数33人に対し、決算数32人、外来延患者数は計画数161,260人に対し、決算数144,149人、1日平均外来患者数は計画数220人に対し、決算数197人となりました。

収益的収支計画においては、本院の経常損益は計画額1,100万円の損失に対し、決算額は4億5,700万円の利益、分院の経常損益は計画額300万円に対し、決算額は5,100万円の利益となりました。

資本的収支計画においては、収入から支出を引いた資金不足額が計画額

44億7,900万円に対し、支出予算を執行したうえでの資金不足額は、57億5,400万円となりました。

内部留保資金の計画においては、損益勘定留保資金の翌年度繰越額は平成24年度は計画額24億6,200万円に対し、決算額は23億8,800万円、平成25年度は計画額24億3,400万円に対し、決算額は16億7,300万円、平成26年度は計画額27億400万円に対し、決算額は13億700万円となり、いずれも計画額を下回りました。

経営指標においては、本院は計画期間を通して医業収支比率、職員給与比率において良好な結果を示し、分院は経常収支比率において比較的良好な結果を示しました。

5 財務計画の達成状況等の具体的な数値等

財務計画の具体的な達成状況は、19ページから29ページまでのとおりです。

6 経営改革委員会の評価

本計画は、経営改革委員会の点検を受け、その評価を公表することとしています。同委員会の評価は、30ページ以降のとおりです。

別表

〔達成度の自己評価〕

A : 100%以上	32件
B : 80%以上100%未満	9件
C : 50%以上80%未満	1件
D : 50%未満	2件
該当なし	5件

I 医療機能の充実

1 人材の充足

No.	項目及び取組内容	平成26年度の達成状況		評価	3か年の総括
		取組内容	成果		
(1)	<p>医師の確保推進</p> <p>大学医局への派遣依頼、学生・研修医対象の合同説明会への参加、新たな人材の積極的発掘・募集 (H24～26:実施)</p>	<p>○千葉大学医局及び他大学医局への派遣依頼</p> <p>○確保困難な診療科について民間人材斡旋事業者の活用(麻酔科等)</p> <p>○研修病院合同説明会への出展 後期研修医対象 2回 初期研修医対象 3回</p> <p>○求人誌への掲載</p> <p>○病院ホームページ、募集サイトからの公募</p> <p>○目標として正規職員医師数を104人に設定</p>	<p>○複数の民間人材斡旋事業者を活用し、麻酔科非常勤医師をスポット対応で補充しました。</p> <p>○病理診断科常勤医師を4月に2人、10月に1人、12月に1人を採用、4人の常勤医師を確保しました。</p> <p>○泌尿器科非常勤医師(週1日勤務)1人を27年4月より採用します。</p> <p>○神経内科及びリハビリテーション科非常勤嘱託医師を27年4月より1人ずつ採用します。</p> <p>○平成26年度末の正規職員医師数は103人で、目標の104人を概ね達成することができました。また、医師総数は、前年度比で14人増員することができました。</p> <p>[医師数]<25年度> <26年度> 正規職員 94人 → 103人 後期研修医 27人 → 32人 初期研修医 28人 → 28人 計 149人 → 163人</p>	B	<p>各年度とも正規職員医師数の増員目標には若干達しなかったものの、計画当初に比べ、医師総数が増加したことや、病理診断科の常勤医師を確保できたことなど一定の成果を得ることができました。今後は更に取組を強化し、医師の確保に努めます。</p> <p>[医師数]<23年度> <26年度> 正規職員 97人 → 103人 後期研修医 31人 → 32人 初期研修医 25人 → 28人 計 153人 → 163人</p>
(2)	<p>看護師の確保推進</p> <p>募集活動の強化 (H24～26:実施)</p>	<p>○県内外の看護系大学、短大及び養成所を訪問 県内19校、県外8校</p> <p>○合同就職説明会への出展 青森、仙台、新潟、東京、千葉、松本及び福岡会場(各1回)</p> <p>○看護師募集サイトの活用、看護学生向け電子メールの配信、就職雑誌への掲載</p> <p>○病院見学会及び就職説明会の開催(4回)</p> <p>○インターンシップ研修会の開催(3回)</p> <p>○離職防止対策の実施</p> <p>○君津中央病院企業団看護師等紹介職員報奨規程の活用</p> <p>○附属看護学校学生募集活動の実施</p> <p>○目標として実働看護職員数を604人に設定</p>	<p>平成25年度末と平成26年度末の看護職員数を比較すると、613人から618人となり、5人増員となりました(非常勤看護職員は除く)。しかしながら、実働看護職員数は574人であり、目標の604人を達成することができませんでした。</p> <p>[看護職員数] <25年度> <26年度> 看護師 583人 → 586人 助産師 17人 → 20人 保健師 1人 → 1人 准看護師 12人 → 11人 計 613人 → 618人</p>	B	<p>看護職員数は年々増加しており一定の成果を得ているものの、目標の実働看護職員数を達成することができませんでした。今後も、看護師の募集活動を強化するとともに離職防止に努めます。</p> <p>[看護職員数] <23年度> <26年度> 看護師 554人 → 586人 助産師 17人 → 20人 保健師 1人 → 1人 准看護師 16人 → 11人 計 588人 → 618人</p>

(3)	技士等の確保推進	募集活動の強化 (H24～ 26:実施)	○人員計画の早期策定 ○採用試験の早期実施	早期に採用試験を実施したことで、人材を確保することができました。 [増員内訳] 薬剤師 1人 臨床検査技師 1人 管理栄養士 2人 調理師 2人 理学療法士 3人 作業療法士 2人 言語聴覚士 1人 臨床工学技士 3人 歯科衛生士 1人 視能訓練士 2人 社会福祉士 1人 計 19人	A	人材が確保できたことで、検査件数の増加、医師・看護師の業務負担軽減等が図れました。また、理学療法士の大幅な増員により、25年度から土曜日のリハビリテーションを開始しました。今後も各種学校等に早期から募集情報を提供するなどをして、人材の確保に努めます。
(4)	人材の育成	①学校及び学生寄宿舎の建て替え (H24～ 26:実施)	○新学生寄宿舎建設用地内にある旧看護学校校舎の解体 ○新学生寄宿舎の実施設計	○12月に旧看護学校校舎の解体工事が完了しました。 ○1月に新学生寄宿舎の実施設業務が完了し、3月に同建設に係る入札（建築・電気・機械）を実施し、各施工業者が決定しました。	A	新看護学校校舎は当初計画のとおり平成26年3月に完成し、4月に63人(定員60人)の新入学生を迎え入れました。また、新学生寄宿舎については、平成28年3月の完成を予定しています。
		②各種研修等への参加 (H24～ 26:実施)	○全職員を対象とした各種院内研修会を開催 ○院外研修会への参加	各研修会ともに医師、看護職員、医療技術職員及び事務職員が多数参加しました。 ○院内研修会の実績 ・9種類の研修会を15回開催 ・参加総人数 862人 ○院外研修会への参加実績 参加総人数 1,031人	A	各職種ともに積極的に研修会に参加したことで、専門知識を深めることができました。今後も、人材育成、医療の質及び患者サービスの向上を図るため、職種を横断した研修会を開催していきます。
		③実習受入れの拡大 (H24～ 26:実施)	○職種別の実習受入れ ○看護実習生用図書を購入 ○他施設の設備調査 (実習生用の当直室、更衣室等)	○前年度と比較して実習受入れ人数は減少しました。 実習受入れ人数 平成26年度 144人 平成25年度 154人 10人減 ○実習設備の整備の一環として県に補助金申請を行い、看護実習生用図書を購入しました。 図書購入費 349,474円 (うち補助金額174,000円) ○当院と同規模の他施設の設備を調査したところ、実習生用の当直室、更衣室等を備えている施設はなく、実習生はいずれの施設においても当院と同様に職員用の当直室、更衣室等を使用していることが確認できました。	B	実習生・研修生受入規程を整備し、各種実習の受入れに積極的に取り組みました。また、これらを受入れることで実習指導する職員のスキルアップを図ることができました。
(5)	職場環境の整備	①駐車場の増設 (H24～ 26:実施)				当初計画のとおり、当院敷地に隣接する土地の地権者との用地交渉を経て、土地賃貸借契約を締結し、駐車場造成工事を行い、平成26年4月に新たに職員駐車場148台分を増設したことで、十分な駐車ス

						ペースを確保することができました。
	②地階セキュリティの強化 (H24～ 25:検討) (H26:実施)	入退室管理（院内セキュリティ）の運用について業務改善委員会等で検討	3月より入退室管理を開始しました。	A	当初は出入り業者のみを対象とした入退室管理（地階セキュリティ）を行う計画でしたが、その後、面会人を含む病棟の入退室管理まで行うよう対象範囲を広げたため、運用の検討に時間を要し、平成27年3月からの運用開始となりました。	
	③院内暴力対応指針の策定 (H24:実施)				○3か年計画の初年度に「職員への暴力・暴言対応マニュアル」を作成しました。 ○君津地域行政対象暴力対策研修会に各年度参加しました。また、県から配信される「行政対象暴力に関する報告書」を随時院内に周知することで職員の行政暴力対策への意識向上に努めました。	

2 不足する医療機能の充足

No.	項目及び取組内容	平成26年度の達成状況		評価	3か年の総括
		取組内容	成果		
(1)	需要が増加する医療機器等の増設 血管造影装置等を増設し、検査待ち等を改善 (H24～ 26:実施)	○イベントレコーダー（発作時心臓活動記録装置）の増設 ○全自動免疫測定装置の新規導入	○増加する不整脈患者に対応するため、イベントレコーダーを10台増設しました。 (25台→35台) ○増加する透析患者に対応するため、体内水分管理に有効な全自動免疫測定装置を新規導入しました。	A	平成24年度に血管造影エックス線診断装置等を増設し検査待ち期間等の改善を図りました。その後に、透析用監視装置、イベントレコーダー等を増設したことで、需要が増加する医療機器については、概ね計画のとおり増設することができました。
(2)	診療棟の増築 診療施設の拡張 災害時トリアージセンターの確保 (H24:検討) (H25:設計) (H26:実施)	診療施設の拡張検討	平成26年12月議会定例会において、27年度までの継続事業として承認を得て、2月に「君津中央病院企業団病院事業施設整備基本計画等策定業務」の業務委託契約を締結しました。	B	「手術部門の拡張」施策との一体事業として診療施設拡張の検討を行いました。今後は、基本計画等策定業務の中で引き続き検討していきます。
(3)	電子カルテシステムの導入	電子カルテシステムの導入 (H24:検討) (H25:導入)			電子カルテシステムは、当初計画のとおり、平成25年11月から稼働しました。

3 新たな医療機能の拡充

No.	項目及び取組内容	平成26年度の達成状況		評価	3か年の総括
		取組内容	成果		
(1)	医療安全の強化 患者バーコード認証の導入検討 (H24:検討) (H25:導入)	○インシデント管理システムの活用による医療安全対策の構築	○4月よりインシデント管理システムが稼働したことで、精度の高い医療安全対策を講じることができるようになりました。	A	平成25年11月にバーコード3点患者認証システム、26年4月にインシデント管理システムを導入し、医療安全対策の強化を図りました。

(2)	小児医療の充実	①小児内分泌医療の充実 (H24～26:検討)	日本内分泌学会認定教育施設(小児科)の取得	日本内分泌学会認定教育施設(小児科)として認定されました。(平成27年4月より)	A	日本内分泌学会認定教育施設(小児科)の認定を受けることができました。また、先天性代謝異常等の精査機関としても稼働しており、医療圏を超えた小児内分泌患者の受入れを実施しています。
		②D I C U (発達支援集中治療室)の研究 (H24～26:検討)	D I C Uの設置について具体的に研究	研究の結果、現段階でのD I C Uの設置は困難との結論に至りました。	A	N I C Uの有効活用と在宅療育を希望する家族の支援を目的としてD I C Uの設置について研究しました。現段階においては、施設面等で目途が立たず見送りました。今後は現状でできる範囲での支援を行っていきます。
		③P I C U (小児集中治療室)の研究 (H24～26:検討)	○千葉県小児救急ネットワークへの参加 ○千葉県の虐待対策チームとの連携	○救急・集中治療科や他施設との連携について検討することができました。 ○千葉県虐待防止研究グループに加盟しました。	A	P I C Uでは超重症児のケアを更に綿密に行う必要があるため、設置について研究しました。また、リハビリテーションや緩和医療及び児童虐待への関与も重要なことから、これらについて院外施設との連携を図りながら取組を継続していきます。
(3)	介護老人保健施設の設置	地域のニーズを踏まえながら、介護老人保健施設の設置を検討 (H24:方針策定)	介護老人保健施設の設置検討	2月に「君津中央病院企業団病院事業施設整備基本計画等策定業務」の業務委託契約を締結しました。	B	基本計画等策定業務の中で引き続き検討していきます。
(4)	回復期リハビリテーション施設の設置	地域のニーズを踏まえながら、回復期リハビリテーション施設の設置を検討 (H24:研究)(H25:方針策定)	回復期リハビリテーション施設の設置検討	2月に「君津中央病院企業団病院事業施設整備基本計画等策定業務」の業務委託契約を締結しました。	B	基本計画等策定業務の中で引き続き検討していきます。
(5)	手術部門の拡張	手術室の増室を検討 (H24～26:検討)	手術室の増室検討	2月に「君津中央病院企業団病院事業施設整備基本計画等策定業務」の業務委託契約を締結しました。	B	「診療棟の増築」施策との一体事業として増室の検討を行いました。今後は、基本計画等策定業務の中で引き続き検討していきます。

II 医療サービスの向上

1 体制の充実

No.	項目及び取組内容	平成26年度の達成状況		評価	3か年の総括	
		取組内容	成果			
(1)	地域医療センターの強化	①訪問看護の充足 (H24～26:実施)	○訪問看護師6人体制の維持 ○訪問看護実利用者数55人以上の維持	○訪問看護実利用者数 平成26年度 60人 平成25年度 62人 ○訪問看護延べ利用者数 平成26年度 1,887人 平成25年度 1,991人	A	訪問看護師を1人増員したことで訪問看護実利用者数55人以上の取組目標を達成することができました。今後も、訪問看護の充実を図ります。

	②社会福祉サービス情報の提供 (H24～ 26:実施)	○当院で行っているがん相談支援センター・難病支援センターの取組について、患者及び患者家族への周知 ○難病支援センター事業の一環として地域のケアマネージャー及びソーシャルワーカー等を対象に社会保険労務士による社会保障制度の講演を企画	発症早期から患者及び患者家族へ各支援センターについての案内を行ったことで、治療や生活の課題が発生した際には、各センターから必要な支援・情報を提供することができました。	A	社会保障制度や社会福祉サービスの活用が必要な患者に対し、最新情報の提供を行ったことで、医療・福祉サービスの向上に努めました。	
	③退院支援の拡充 (H24～ 26:実施)	○近隣医療機関、介護老人保健施設及び訪問看護ステーション等関係機関との連携 ○院内外専門職合同の退院支援カンファレンスの実施	○近隣医療機関及び関係施設等との連携を強化し、円滑な退院支援を行いました。(1,155人の転帰先を決定) ○多職種が参加する退院支援カンファレンスにおいて患者情報を共有することで、退院後の生活の質向上に繋げることができました。	A	3か年の取組を通じて地域の関係機関との連携強化を図ることができました。	
	④地域医療連携の推進 (H24～ 26:実施)	○地域医療支援病院として近隣医療機関との医療連携の推進 ○地域の医療従事者を対象とした研修・講演の実施 ○公開講座等による地域医療連携についての広報活動	○紹介数・逆紹介数の前年度比較 平成26年度 紹介数 20,385件 逆紹介数 13,024件 平成25年度 紹介数 19,766件 逆紹介数 13,030件 平成25・26年度の差 紹介数 619件増 逆紹介数 6件減 ○医療機器の共同利用実績数(前年度比140件増) ・胃カメラ 224件 ・腹部超音波 53件 ・心臓超音波 22件 ・甲状腺超音波 5件 ・筋電図 29件 ・CT 937件 ・MRI 677件 ・骨密度 3件 ・RI 84件 ・PET-CT 68件 ○地域の医療従事者を対象とした研修・講演開催回数 24回 ○地域住民向けの公開講座開催回数 13回	A	○紹介数・逆紹介数は年々増加しています。今後も近隣医療機関との医療連携に努めます。 ○地域の医療従事者と褥瘡予防や吸引研修などの連携に努めました。今後も地域の医療従事者との連携を構築していきます。 ○公開講座については、住民参加の講座を実施して広報活動に努めました。今後も公開講座による広報活動を継続していきます。	
(2)	休止している病床の再稼働	看護師を充足し、休止病床を再稼働 (H24～ 26:再稼働)	○人員確保 ・採用試験を毎月実施 ・業者紹介の積極的な活用 ・夏休み及び春休みにインターンシップを実施 ○離職防止対策 個人の適性に合わせた配置転換等の実施	看護職員数は増加しましたが、目標の実働看護職員数には至らず、病床運用を制限しています。	D	看護職員数は年々増加しているものの、目標の実働看護職員数には達しませんでした。また、外来の血液浄化療法センターの増床等に伴い看護職員の配置が必要となり、病床運用を制限しています。なお、離職率については、平成24年度は7.0%、25年度は8.1%、26年度は7.5%であり、全国平均11.0%(25年度)と比較しても低くなっています。

(3)	外来・入院の包括看護体制の拡充	一部の病棟で実施している外来・入院の包括看護の拡充 (H24～26:実施)	○人員確保 ・採用試験を毎月実施 ・業者紹介の積極的な活用 ・夏休み及び春休みにインターンシップを実施 ○離職防止対策 個人の適性に合わせた配置転換等の実施	看護職員数は増加しましたが、目標の実働看護職員数には至らず、現行の3病棟より増やすことはできませんでした。	D 外来・入院の包括看護体制は、継続的看護を実現するという点で重要ですが、看護職員の大幅な増員には至らなかったため、現行の3病棟より拡充することができませんでした。
(4)	救命救急センターの充実	院内を含む君津医療圏医療従事者向け救命救急研修の実施 (H24～26:実施)	きみさらずICLSコース（君津医療圏の医療従事者を対象に行う心肺蘇生トレーニング実習）を年3回開催	突然の心肺停止に対して最初の10分間の適切なチーム蘇生を習得させることができました。 参加者 第18回（7月） ・医師7人（院内のみ） ・看護師13人（院内のみ） ・救急救命士4人 第19回（12月） ・医師8人（院内のみ） ・看護師11人（院内10人、院外1人） ・准看護師1人（院外のみ） ・薬剤師1人（院外のみ） ・救急救命士3人 第20回（3月） 看護師12人（院内のみ）	A きみさらずICLSコースの対象は、君津保健医療圏の医療従事者でしたが、平成25年度以降は、院内の看護師のみを対象としたコース（第17回・第20回）も開催しました。今後も、きみさらずICLSコースの開催を通じて、君津保健医療圏の救急医療の充実を図ります。
(5)	退院及び退院後支援体制の充実	①オーラルヘルスケアの実施 (H24～26:実施) ②リハビリテーション（理学療法）の土曜日実施 (H24～26:実施) ③糖尿病看護指導の実施 (H24～26:実施)	○口腔ケア院内外勉強会の開催 ○口腔ケア院内連携パスの拡充 ○口腔ケア病診連携体制の構築	○地域歯科医師会での口腔ケア勉強会の開催を含め、院外で4回、院内では2回の口腔ケア勉強会を開催しました。 ○院内においては、外科、耳鼻いんこう科、心臓血管外科に加え、内科系診療科からの口腔機能回復の依頼が増えたことで、口腔ケアの患者数が増加しました。 ○地域歯科医師会との口腔ケア病診連携パスによる関係構築を始めました。	A 年間5～6回の口腔ケア勉強会の開催と院内連携パスの作成により、依頼件数を伸ばすことができました。これにより、口腔ケアによる治療効果の向上を図ることができました。今後も地域歯科医師会との口腔ケア病診連携パスによる関係を構築していきます。 平成25年7月から土曜日のリハビリテーションを開始しました。これにより、入院当日からリハビリテーション開始までの期間は5日（平成24年度は8日）に短縮することができました。 A 退院後の糖尿病療養指導については、患者からの高い評価を得ています。また、他院紹介時の看護連携体制についても確立することができました。今後も取組を継続し、更なる内容の充実を図っていきます。

(6)	診療待ち時間の改善	待ち時間の長い診療科の予約枠と診療体制の改善 (H24～ 26:調査・研究)	診療待ち時間調査の実施 第1回 6月9日～13日 第2回 9月8日～12日 第3回 2月2日～6日 オーダーシステムのデータから、診察開始時間が予約時間枠内だった割合及び予約時間枠を過ぎた割合並びに超過待ち時間を調査	○第1回診療待ち時間調査 診療開始 予約時間枠内 66% 予約時間枠超 34% (超過待ち時間 平均29分) ○第2回診療待ち時間調査 診療開始 予約時間枠内 58% 予約時間枠超 42% (超過待ち時間 平均30分) ○第3回診療待ち時間調査 診療開始 予約時間枠内 71% 予約時間枠超 29% (超過待ち時間 平均28分)	B	電子カルテシステムの導入、医師事務作業補助者の配置、検査予約コーナーの増設移転等の体制整備により、外来診療待ち時間を短縮するとともに、医師の負担を軽減する体制を整備しました。
(7)	災害時等医療体制の見直し	大規模訓練の実施、ライフラインの見直し、備蓄品の充実 (H24～ 26:実施)	4月、1月 消防訓練の実施 9月、12月 防災管理委員会の開催 10月 防災訓練の実施	○10月21日開催のアクアラインマラソンに合わせて、災害レベル2を想定した各部門の初動訓練を実施しました。 ○12月に開催した防災管理委員会にて、君津地域における災害時医療体制と、災害レベルに応じた防災マニュアルの見直しの必要性について検討しました。	A	平成24年、26年に開催されたアクアラインマラソンの負傷者受入れに合わせて大規模災害を想定した各部門の初動訓練を実施しました。また、千葉県地域医療再生基金災害医療体制整備事業補助金を活用し、災害時備蓄品を整備しました。

2 施設機能の維持

No.	項目及び取組内容	平成26年度の達成状況		評価	3か年の総括	
		取組内容	成果			
(1)	建物・設備の経年劣化した箇所の修繕	①1階、2階フローリング改修工事 (H26:実施)	施工方法を再度検討		C	財政状況等を考慮し、今回、先送りとなりましたが、今後も利用者が安全に通行できるよう維持管理に努め、施工方法等を再度検討し、次年度以降に計画したいと考えております。
		②ボイラー更新工事 (H24:2台更新) (H25:2台更新) (H26:1台更新)	ボイラー5号機 5月・6月 設計、入札、契約 7月～10月 更新工事 11月 完成	11月完成予定でしたが、工期が短縮されたことで、10月末に更新が完了しました。	A	
(2)	施設設備の更改及び見直し	①汚水経路の接続換え (H24:検討) (H25:実施)	○烏田1号幹線接続ルートの一部変更するために関係機関と協議 ○汚水管敷設に伴う給水管及び雨水管の切廻し工事を施工	○変更部分を含む烏田1号幹線接続ルートの実施設計を完了しました。 ○給水管及び雨水管の切廻し工事を実施しました。	A	国道、鉄道及び河川(県土木)との施工協議に時間を要したことで、着工が遅れましたが、その後、工事は順調に進捗し、平成27年度内での完成を予定しています。
		②非常用発電設備の増設検討 (H24～ 26:実施)	予備用発電機の概算費用の検討(費用対効果、設置場所、機器改造等)	現行の受電方式(本線予備線式2回線受電+非常用発電機+非常用発電機)の電力状況及び負荷状況並びに当院の立地状況等を総合的に検討した結果、次期3か年経営計画では更新等の必要性は低いと結論	A	現行の受電状況及び予備用発電機の必要性並びに当院の立地状況等の検証することができたことで、将来的な更新計画等の策定に繋げることができました。

				付けました。		
(3)	医療機器の更新	新病院開院時に更新した医療機器の更新 (H24～26:実施)	5月 医療機械・物流管理委員会開催 (平成26年度購入機器決定) 8月 平成27年度予算要求ヒアリングの実施 9月 平成27年度予算要求 12月 医療機械・物流管理委員会開催 (平成27年度購入予定医療機械概要説明)	主な更新医療機器 ・SPECT-CT ・産婦人科部門システム ・NICU重症部門システム ・FPDシステム ・ウォッシャーディスインフエクター (4台) ・超音波診断装置	A	予算要求に基づくヒアリングの実施と医療機械・物流管理委員会での承認を経て、順次医療機器等の購入手続きを行いました。平成24年度はCT 2台の更新、25年度はMRIの更新1台及びアップグレード1台、26年度はSPECT-CT 1台を更新しました。
(4)	学校及び学生寄宿舎の建て替え	老朽化した学校及び学生寄宿舎の建て替え (H24:設計・建設) (H25:建設) (H26:供用)	(再掲) ○新学生寄宿舎建設用地内にある旧看護学校校舎の解体 ○新学生寄宿舎の実施設計	(再掲) ○12月に旧看護学校校舎の解体工事が完了しました。 ○1月に新学生寄宿舎の実施設計業務が完了し、3月に同建設に係る入札 (建築・電気・機械) を実施し、各施工業者が決定しました。	A	(再掲) 新看護学校校舎は当初計画のとおり平成26年3月に完成し、4月に63人 (定員60人) の新入学生を迎え入れました。また、新学生寄宿舎については、平成28年3月の完成を予定しています。
(5)	分院としての施設・機能の見直し	分院のこれからの事業及び施設のあり方を検討 (H24:方針策定)	分院のこれからの事業及び施設のあり方を検討	平成26年12月議会定例会において、27年度までの継続事業として承認を得て、2月に「君津中央病院企業団病院事業施設整備基本計画等策定業務」の業務委託契約を締結しました。	A	平成25年6月の君津中央病院企業団議会議員全員協議会において、大佐和分院施設整備基本方針が承認されました。その後、企業団内外での協議を経て、基本計画等策定業務の中で引き続き検討していくこととなりました。

3 病院機能評価の受審

No.	項目及び取組内容	平成26年度の達成状況		評価	3か年の総括
		取組内容	成果		
(1)	患者満足度調査の実施 患者からの意見、要望等の調査を定期的 に実施 (H24～ 26:実施)	11月から12月にかけて患者満足度アンケート調査を実施 外来：982人 入院：378人 (12病棟)	調査を実施したことで、問題点の改善や満足度の向上に役立てられる資料を収集することができました。 [外来アンケート結果] ・診断、治療の満足度 満足、ほぼ満足 65.2% 普通 28.7% やや不満、不満 4.2% 未回答 1.9% ・当院を他の方に紹介 勧める 62.2% 勧めない 2.6% 分からない 21.1% 未回答 14.1% [入院アンケート結果] ・当院に対する満足度 満足、ほぼ満足 74.9% 普通 9.5% やや不満、不満 1.6% 未回答 14.0% ・当院を他の方に紹介 勧める 69.6% 勧めない 1.8%	A	患者満足度アンケート調査を実施したことで、病院利用者の意見や要望並びに満足度について把握することができました。本調査は、今後も医療サービス向上の指標とするため、継続して実施します。

				分からない 未回答	12.7% 15.9%	
(2)	医療図書室の設置	市民向けの医療図書室を設置 (H24:検討) (H25:開設)				平成24年10月に患者図書室を開設することができました。今後も、利用者にとって快適な利用環境を整え、質の高い医療情報の提供に努めます。
(3)	評価項目に該当する設備等の更改	評価項目に対応した設備等の改修・更改 (H24～ 25:体制づくり) (H26:受審)	消費エネルギーの削減 ・インバーター化に向けた冷温水ポンプ及び制御盤交換の費用対効果に基づく予算化の検討	費用対効果及び削減可能エネルギーの検証に基づく予算化の検討ができました。	A	削減可能エネルギーについて検討することで、インバーター制御機器への交換に係る費用対効果等の検証が可能となり、施工計画の策定に繋げることができました。

III 経営効率化の推進

1 診療報酬の対策強化とDPCデータの活用

No.	項目及び取組内容	平成26年度の達成状況		評価	3か年の総括
		取組内容	成果		
(1)	各種加算の取得 平成24年度、平成26年度の診療報酬改定に伴う各種加算の取得 (H24～ 26:実施)	<ul style="list-style-type: none"> ○平成26年度診療報酬改定に係る施設基準の取得検討 ○上位施設基準取得に向け、費用対効果の検証 ○施設基準取得に向けた院内調整及び体制整備 ○施設基準の届出 	<ul style="list-style-type: none"> ○平成26年度施設基準の届出新規、変更、実績届出の総数は91件 4月(新規) 総合入院体制加算施設基準取得 平成26年度実績 年間約100,000千円増収 10月(上位施設基準) 急性期看護補助体制加算25対1施設基準取得 平成26年度実績 年間約35,000千円増収 	A	本計画期間内に、大幅な増収となる新規及び上位施設基準を取得することができました。今後も、各種施設基準等の取得並びに維持に努め、病院経営の安定化を図ります。
(2)	診療報酬査定減の対策強化 診療報酬請求事務担当者のスキルアップ (H24～ 26:実施)	<ul style="list-style-type: none"> ○随時 各科(医師、看護師等)と診療報酬に関する勉強会の開催 ○毎月 ・課内勉強会の定期開催 ・査定減対策研究会を開催し、査定傾向(減点内容)の分析と再審査請求の可否を検討し報告 ・院外のDPCセミナー、診療報酬研修会への参加 ○全国の先進施設10病院との病院経営戦略研究会への参加 ○先進優良施設への視察 	<ul style="list-style-type: none"> 査定率 ・外来 平均0.16% (前年度比0.03%増) ・入院 平均0.28% (前年度比0.01%増) ・全体 平均0.25% (前年度比0.02%増) 	A	医事課職員のスキルアップ及び医師・看護師等との情報交換の推進により、3年間で査定率が0.05%減少しました。これにより、査定金額は年間約850万円の減少となりました。
(3)	DPCデータの活用 DPCデータ解析による医療体制や経営の分析 (H24～ 26:実施)	<ul style="list-style-type: none"> ○病院経営収支の改善を図るため、経営改善プロジェクトチームを組織 ○毎月1回DPCアドバイザーとの検討会を開催 ○全国の先進施設10病院との病院経営戦略研究会への参加 ○DPC II群病院要件取得のための取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○DPC医療機関別係数 平成26年4月～ 1.4043 平成26年10月～ 1.4139 平成27年4月～ 1.4111 (平成27年度は対26年度比で約7,000千円増収見込) ○DPC機能評価係数 II 全国のDPC III群病院 約1,500施設中41位 	A	DPC医療機関別係数の向上により、収益は毎年増加しました。平成28年度診療報酬改定時に、DPC II群病院の要件を取得できるよう取組を継続していきます。

		○当院のクリニカルパス化未実施の疾病について他施設の実施内容をDPC委員会に報告、提案、各診療科医師との調整		
--	--	--	--	--

2 経費の合理化

No.	項目及び取組内容	平成26年度の達成状況		評価	3か年の総括		
		取組内容	成果				
(1)	変動費の合理化	①薬品費 (H24～26:実施)	スケールメリットによる値引率向上を図るため、納入業者を3社に選定し、3か月ごとに購入単価を見直し、価格交渉を実施	平成26年度の目標値引率15.0%に対し、四半期を通じての年間値引率は15.06%となり、目標値を達成しました。今後も、値引率向上のため、引き続き契約方法と業者選定方法の見直しを検討します。	A	平成24年度及び25年度においては、目標値引率を下回りましたが、経営改善プロジェクトの取組により、26年度は値引率が向上し、目標を達成しました。今後も、3か年経営計画の行動計画に基づき、経費の合理化に努めていきます。	
		②診療材料費 (H24～26:実施)	平成26年3月 ・平成26年度診療材料競争見積を実施 ・平成26年度検査試薬競争見積を実施	前年度の購入品目及び数量に当てはめた場合の減額率は、診療材料が3.5%、検査試薬は0.4%でした。	A		引き続き、競争見積を実施し、価格の見直しを行うことで、経費の合理化に努めていきます。
		③光熱水費 (H24～26:実施)	○電気料金 空調機の運転スケジュール及び温湿度見直し等による電気使用量の削減(目標:平成23年度比1%削減) ○ガス料金 空調機の運転スケジュール及び温湿度見直し等によるガス使用量の削減(目標:平成23年度比1%削減)	○電気使用量 → 7%増 ○ガス使用量 → 5%減 電気使用量の削減目標は達成できませんでしたが、コスト意識の徹底は図ることができました。	B		

3 未収金対策の強化

No.	項目及び取組内容	平成26年度の達成状況		評価	3か年の総括	
		取組内容	成果			
(1)	未収金回収の強化	未収金管理回収業務委託による回収率の向上 (H24～26:実施)	4月 法律事務所への未収金回収業務委託 ・契約締結 ・支払督促可能案件の選定 6月・8月・10月・2月 法律事務所による回収委託実施 法律事務所と病院職員の未収金回収に関する連携の推進	平成26年度の未収金回収業務委託による回収実績 委託額 14,496,332円 委託件数 114件 委託回収額 6,344,859円 委託回収率 43.77%	A	平成24年度から法律事務所へ未収金回収業務を委託しました。法律事務所と病院職員が連携することにより効果が上がっています。今後も医療費負担の公平化を図っていきます。 平成24年度からの未収金回収業務委託による累計回収実績 委託額 44,208,471円 委託件数 255件 委託回収額 11,188,077円 委託回収率 25.31%
(2)	患者情報共有の推進	外来・病棟・医事課・医療福祉相談室間の情報共有 (H24～26:実施)	○支払困難な患者に対するMSWの介入 ・外来、病棟及び医事課等において支払困難な患者を把握した時点でのMSWの早期介入 ・MSWの指示の下、情報を	○MSW経済的問題支援件数 外来 1,150件 入院 626件 合計 1,776件 (前年度比576件増) ○平成26年度発生未収金額 131,093,980円	A	院内の各部署で未収金発生防止対策を強化したことにより、未収金発生額は年々減少しています。特に、MSWの経済的問題支援相談件数は大幅に増加し、その効果が上がっています。急性期病院の中

		<p>共有化して対応を検討 ○悪質な未収患者の対応 外来、病棟、医事課及びMSWとの相互連絡による再来時、再入院時の未収患者との接触、面談の強化</p>	<p>(前年度比22,754,174円減) ○平成26年度対医業収益 0.746% (前年度比0.149%減) ○平成26年度未収金回収率 58.8% (前年度比1.3%減) ○平成26年度末未収金残高 242,635,169円 (前年度比26,582,211円減)</p>	<p>で、地域医療連携や患者の社会的支援等においてMSWは重要な役割を担っているため、MSWの増員は、今後取り組むべき重要施策であります。</p>
--	--	--	---	---

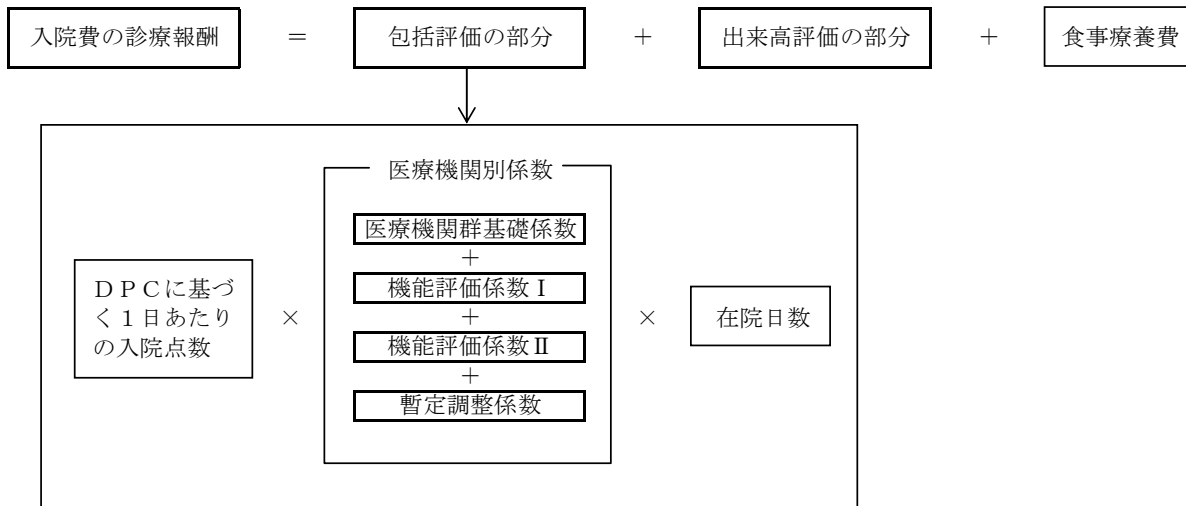
[用語解説]

※ オーラルヘルスケア

口腔清掃にとどまらず虫歯の治療、入れ歯等の治療、歯周病の治療も行うものです。また、食べる機能、話す機能、嚥下機能等を維持・改善させ、生活の質を向上させるものでもあります。

※ DPC (DPC/PDPS)

Diagnosis Procedure Combination/Per-Diem Payment System の略で、診断群分類に基づく1日当たり定額報酬算定制度といい、これは従来の診療行為ごとに計算する出来高払い方式とは異なり、入院患者の病気とその症状を基に国で定めた1日あたりの定額の点数からなる包括評価の部分（投薬、注射、入院料等のホスピタリティー的要素）と出来高評価の部分（手術料、麻酔料等のドクターフィー的要素）を組み合わせる診療費を計算する方式です。包括評価の部分は、さらに1日あたりの入院点数、医療機関別係数及び在院日数で構成され、これらを図示すると、以下のとおりとなります。



※ 医療機関別係数

DPC制度における包括点数の算定式を構成する1項目です。具体的には、基礎係数（医療機関群ごとの基本的な診療機能を評価する係数）、機能評価係数Ⅰ（医療機関単位での構造的因子を評価する係数）、機能評価係数Ⅱ（医療機関が担うべき役割や機能を評価する係数）及び暫定調整係数（各医療機関の医業収入水準が改定前後で維持されるよう設定された係数）の4つの係数で構成されています。

※ DPCⅡ群病院、DPCⅢ群病院

DPC対象病院は、役割や機能に応じて3つの医療機関群に分類されます。具体的には、大学病院本院はⅠ群、Ⅰ群に準じた診療機能を有する病院として所定の基準を満たす施設をⅡ群、それ以外をⅢ群として分類しています。

※ MSW

Medical Social Worker の略で、医療ソーシャルワーカーを意味します。社会福祉の理論と技術を習得した社会福祉専門職をソーシャルワーカーと呼びますが、特に医療福祉分野で相談業務に従事する専門職を医療ソーシャルワーカーと呼びます。

※ DICU

Developmental Intensive Care Unit の略で、発達支援集中治療室と訳されます。新生児医療を提供するなかで、療養施設の空床待ち・自宅退院が困難な患児の退院調整、治療と療育の場の分離による療養環境の整備、患児の発達に応じた療養環境の場の提供等が主な役割です。

※ PICU

Pediatric Intensive Care Unit の略で、小児集中治療室と訳されます。救急搬送された重篤な小児患者の収容等が主な役割です。

※ クリニカルパス

主に入院時に患者へ手渡す診療スケジュール表のことです。タテ軸に病気を治すうえで必要な治療・検査やケアなどを、ヨコ軸に時間軸（日付）を配置しています。患者は、病気の治療内容とタイムスケジュールが明確になることで、その日にどういう検査があって、いつ手術をして、いつ頃には退院できるかということがわかるため、入院生活の不安を少しでも解消できます。また、医療スタッフは、どのような医療行為をいつ、誰が行うのか、患者への説明はどのようにするか、ということが明確になり、円滑なチーム医療を提供できます。

財務計画の達成状況(平成26年度)

1. 業務予定量<本院>

(単位:人)

		計画数	予算数	決算数	達成率	備考
延 患 者 数	入院	211,700	204,400	201,808	95.3%	
	外来	297,680	285,480	281,588	94.6%	
1 日 平 均 患 者 数	入院	580	560	553	95.3%	
	外来	1,220	1,170	1,154	94.6%	

2. 収益的収支計画<本院>

(単位:百万円)

		計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
患 者 1 人 1 日 あ た り 診 療 額	入院	62,300円	63,500円	63,661円	102.2%	
	外来	12,900円	14,800円	14,952円	115.9%	
本院事業収益		19,223	19,500	19,339	100.6%	
医業収益		17,556	17,755	17,569	100.1%	
入院収益		13,189	12,979	12,848	97.4%	
外来収益		3,840	4,225	4,210	109.6%	
その他医業収益		527	551	511	97.0%	
医業外収益		1,667	1,745	1,770	106.2%	
負担金交付金		1,170	1,035	1,044	89.2%	関係市負担金等
本院事業費用		19,294	19,986	19,507	98.9%	
企業団管理費		2	2	2	100.0%	
医業費用		18,594	19,043	18,459	100.7%	
給 与 費		10,278	10,061	9,967	103.0%	
材 料 費		4,502	4,761	4,660	96.5%	
経 費		2,363	2,360	2,012	114.9%	
減価償却費		1,321	1,690	1,686	72.4%	
資産減耗費		27	55	54	0.0%	
研究研修費		103	116	80	122.3%	
医業外費用		698	941	1,046	50.1%	
支払利息		281	291	289	97.2%	
経常損益		△ 71	△ 486	△ 168	△ 36.6%	
看護師養成事業収益		377	379	379	100.5%	
(負担金交付金)		333	319	319	95.8%	関係市負担金
看護師養成事業費用		377	315	293	122.3%	
特別利益		0	734	733	皆増	
特別損失		118	628	611	△ 317.8%	
予備費		5	5	0	0.0%	
当年度純損益		△ 194	△ 321	40	220.6%	

3. 業務予定量<分院>

(単位:人)

		計画数	予算数	決算数	達成率	備考
延 患 者 数	入院	12,045	11,680	11,835	98.3%	
	外来	53,680	48,800	47,263	88.0%	
1 日 平 均 患 者 数	入院	33	32	32	97.0%	
	外来	220	200	194	88.2%	

4. 収益的収支計画<分院>

(単位:百万円)

		計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
患 者 1 人 1 日 あ た り 診 療 額	入院	29,300円	28,400円	29,352円	100.2%	
	外来	5,400円	5,500円	5,717円	105.9%	
分院事業収益		691	702	720	104.2%	
医業収益		670	627	644	96.1%	
入院収益		353	332	348	98.6%	
外来収益		290	268	270	93.1%	
その他医業収益		27	27	26	96.3%	
医業外収益		21	75	76	361.9%	
負担金交付金		1	54	58	5800.0%	関係市負担金等
分院事業費用		690	687	676	102.0%	
医業費用		680	675	662	102.6%	
給 与 費		490	496	489	100.2%	
材 料 費		79	79	78	101.3%	
経 費		73	62	58	120.5%	
減価償却費		33	35	35	93.9%	
資産減耗費		2	1	1	150.0%	
研究研修費		3	2	1	166.7%	
医業外費用		10	12	14	60.0%	
支払利息		0	0	0	-	
経常損益		1	15	44	4400.0%	
特別利益		0	6	7	皆増	
特別損失		1	27	26	△ 2400.0%	
当年度純損益		0	△ 6	25	皆増	

5. 資本的収支計画

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
資本的収入	1,287	181	139	10.8%	
企業債	1,287	164	120	9.3%	
出資金	0	0	0	-	
他会計負担金	0	0	0	-	
国県補助金	0	0	0	-	
長期貸付金返還金	0	0	0	-	
固定資産売却代金	0	0	2	皆増	
その他資本的収入	0	17	17	皆増	
資本的支出	2,560	2,463	2,258	111.8%	
建設改良費	1,600	1,493	1,294	119.1%	
建設工事費	1,430	242	177	187.6%	
設備費	170	1,023	889	△ 322.9%	
リース資産購入費	0	228	228	-	
企業債返還金	959	959	959	100.0%	
国県補助金返還金	0	0	0	-	
投資及び有価証券取得費	0	10	5	-	
予備費	1	1	0	0.0%	
差引資金不足額	1,273	2,282	2,119	33.5%	

6. 内部留保資金の計画

(1) 損益勘定留保資金

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
過年度損益勘定留保資金	2,434	1,682	1,673	68.7%	
当年度損益勘定留保資金	1,543	1,440	1,753	113.6%	
留保資金使用額	1,273	2,282	2,119	166.5%	
翌年度繰越額	2,704	840	1,307	48.3%	

(2) 積立金等

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
減債積立金残高	0	104	104	皆増	
建設改良積立金残高	0	670	670	皆増	
財政調整積立金残高	822	1,285	1,285	156.3%	
積立金取崩額	0	327	0	-	
翌年度繰越額	822	1,732	2,059	250.5%	

7. 関係市からの負担金

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
本院事業	1,167	1,030	1,030	111.7%	
分院事業	0	51	51	-	
看護師養成事業	333	319	319	104.2%	
資本的収入(4市他会計負担金)	0	0	0	-	
合計	1,500	1,400	1,400	106.7%	

8. 企業債

(1) 企業債償還額

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
元金償還額	959	959	959	100.0%	
利子償還額	302	290	289	95.7%	
合計	1,261	1,249	1,248	99.0%	

(2) 企業債残高

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
元金予定残高	19,931	18,373	18,329	92.0%	
利子予定残高	2,823	2,452	2,452	86.9%	
合計	22,754	20,825	20,781	91.3%	

9. 経営指標

		計画値	決算値	達成率
病床利用率	本院	87.7%	83.6%	95.3%
	分院	91.7%	90.1%	98.3%
経常収支比率	本院	99.6%	99.1%	99.5%
	分院	100.1%	106.6%	106.5%
医業収支比率	本院	94.4%	95.2%	100.8%
	分院	98.6%	97.3%	98.7%
職員給与比率 (医業収益比)	本院	58.5%	56.7%	96.9%
	分院	73.2%	75.9%	103.7%
材料費比率 (医業収益比)	本院	25.6%	26.5%	103.5%
	分院	11.7%	12.1%	103.4%
企業債償還元金比率 (医業収益比)	本院	5.5%	5.5%	100.0%
	分院	-	-	-
企業債償還利息比率 (医業収益比)	本院	1.6%	1.6%	100.0%
	分院	-	-	-

財務計画の達成状況(計画期間:平成24年度～26年度)

1. 業務予定量<本院>

(単位:人)

		計画数	予算数	決算数	達成率	備考
延 患 者 数	入院	633,275	625,975	610,943	96.5%	
	外来	886,920	869,840	864,175	97.4%	
1 日 平 均 患 者 数	入院	578	572	558	96.5%	
	外来	1,210	1,187	1,179	97.4%	

2. 収益的収支計画<本院>

(単位:百万円)

		計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
患 者 1 人 1 日 あ た り 診 療 額	入院	60,900円	62,300円	62,446円	102.5%	
	外来	12,633円	13,733円	14,183円	112.3%	
本院事業収益		56,376	57,584	57,111	101.3%	
医業収益		51,368	52,545	51,964	101.2%	
入院収益		38,569	38,993	38,153	98.9%	
外来収益		11,206	11,938	12,258	109.4%	
その他医業収益		1,593	1,614	1,553	97.5%	
医業外収益		5,008	5,039	5,147	102.8%	
負担金交付金		3,498	3,231	3,245	92.8%	関係市負担金等
本院事業費用		56,387	57,813	56,654	99.5%	
企業団管理費		6	6	6	100.0%	
医業費用		54,229	55,413	54,124	100.2%	
給 与 費		29,954	29,693	29,351	102.0%	
材 料 費		13,200	13,898	13,736	95.9%	
経 費		6,638	6,992	6,288	105.3%	
減価償却費		4,050	4,337	4,333	93.0%	
資産減耗費		81	161	153	11.1%	
研究研修費		306	332	263	114.1%	
医業外費用		2,152	2,394	2,524	82.7%	
支払利息		886	896	894	99.1%	
経常損益		△ 11	△ 229	457	4354.5%	
看護師養成事業収益		713	739	736	103.2%	
(負担金交付金)		609	615	615	101.0%	関係市負担金
看護師養成事業費用		713	674	630	111.6%	
特別利益		0	734	734	皆増	
特別損失		168	688	662	△ 194.0%	
予備費		15	15	0	0.0%	
当年度純損益		△ 194	△ 133	635	527.3%	

※ 業務予定量の表中の計画数、予算数、決算数及び収益的収支計画の表中の計画額、予算現額、決算額の数値は、3か年(平成24年度～平成26年度)の合計値であり、それによって達成率を算出しています。ただし、1日平均患者数及び患者1人1日あたり診療額については3か年の平均値です。

3. 業務予定量<分院>

(単位:人)

		計画数	予算数	決算数	達成率	備考
延 患 者 数	入院	36,135	35,770	35,151	97.3%	
	外来	161,260	152,720	144,149	89.4%	
1 日 平 均 患 者 数	入院	33	33	32	97.0%	
	外来	220	208	197	89.5%	

4. 収益的収支計画<分院>

(単位:百万円)

		計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
患 者 1 人 1 日 あ た り 診 療 額	入院	29,167円	28,800円	28,808円	98.8%	
	外来	5,267円	5,333円	5,438円	103.2%	
分院事業収益		2,049	2,060	2,013	98.2%	
医業収益		1,985	1,925	1,876	94.5%	
入院収益		1,055	1,031	1,014	96.1%	
外来収益		849	813	783	92.2%	
その他医業収益		81	81	79	97.5%	
医業外収益		64	135	137	214.1%	
負担金交付金		3	73	81	2700.0%	関係市負担金等
分院事業費用		2,046	2,042	1,962	104.1%	
医業費用		2,016	2,010	1,931	104.2%	
給 与 費		1,441	1,448	1,419	101.5%	
材 料 費		233	236	224	103.9%	
経 費		236	223	190	119.5%	
減価償却費		91	88	86	105.5%	
資産減耗費		6	8	8	66.7%	
研究研修費		9	7	4	155.6%	
医業外費用		30	32	31	96.7%	
支払利息		0	0	0	-	
経常損益		3	18	51	1700.0%	
特別利益		0	6	7	皆増	
特別損失		3	30	29	△ 766.7%	
当年度純損益		0	△ 6	29	皆増	

5. 資本的収支計画(計画期間の合計値)

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
資本的収入	2,968	1,552	1,506	50.7%	
企業債	2,687	1,129	1,085	40.4%	
出資金	0	0	0	-	
他会計負担金	0	0	0	-	
国県補助金	281	406	395	140.6%	
長期貸付金返還金及び返還免除金	0	0	1	皆増	
固定資産売却代金	0	0	8	皆増	
その他資本的収入	0	17	17	皆増	
資本的支出	7,447	7,916	7,260	102.5%	
建設改良費	4,586	4,988	4,392	104.2%	
建設工事費	3,410	2,063	1,740	149.0%	
設備費	1,176	2,697	2,424	△ 6.1%	
リース資産購入費	0	228	228	-	
企業債返還金	2,832	2,831	2,831	100.0%	
国県補助金返還金	2	51	27	1350.0%	
投資及び有価証券取得費	24	43	10	158.3%	
予備費	3	3	0	0.0%	
差引資金不足額	4,479	6,364	5,754	71.5%	

6. 内部留保資金の計画

(1) 損益勘定留保資金

(単位:百万円)

24年度	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
過年度損益勘定留保資金	2,185	2,185	2,336	106.9%	
当年度損益勘定留保資金	1,555	1,555	1,535	98.7%	
留保資金使用額	1,278	1,303	1,483	116.0%	
翌年度繰越額	2,462	2,437	2,388	97.0%	

25年度	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
過年度損益勘定留保資金	2,462	2,388	2,388	97.0%	
当年度損益勘定留保資金	1,455	1,434	1,437	98.8%	
留保資金使用額	1,483	2,334	2,152	145.1%	
翌年度繰越額	2,434	1,488	1,673	68.7%	

26年度	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
過年度損益勘定留保資金	2,434	1,682	1,673	68.7%	
当年度損益勘定留保資金	1,543	1,440	1,753	113.6%	
留保資金使用額	1,273	2,282	2,119	166.5%	
翌年度繰越額	2,704	840	1,307	48.3%	

(2) 積立金等

(単位:百万円)

24年度	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
減債積立金残高	45	45	76	168.9%	
建設改良積立金残高	400	400	670	167.5%	
財政調整積立金残高	822	452	766	93.2%	
積立金取崩額	445	445	0	0.0%	
翌年度繰越額	822	452	1,512	183.9%	

25年度	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
減債積立金残高	0	104	104	皆増	
財政調整積立金残高	0	670	670	皆増	
財政調整積立金残高	822	1,285	1,285	156.3%	
積立金取崩額	0	0	0	-	
翌年度繰越額	822	2,059	2,059	250.5%	

26年度	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
減債積立金残高	0	104	104	皆増	
財政調整積立金残高	0	670	670	皆増	
財政調整積立金残高	822	1,285	1,285	156.3%	
積立金取崩額	0	327	0	-	
翌年度繰越額	822	1,732	2,059	250.5%	

7. 関係市からの負担金

(単位:百万円)

24年度	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
本院事業	1,166	1,166	1,166	100.0%	
分院事業	0	0	0	-	
看護師養成事業	134	134	134	100.0%	
資本的収入(4条他会計負担金)	0	0	0	-	
合計	1,300	1,300	1,300	100.0%	

25年度	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
本院事業	1,157	1,023	1,023	88.4%	
分院事業	0	15	15	皆増	
看護師養成事業	143	162	162	113.3%	
資本的収入(4条他会計負担金)	0	0	0	-	
合計	1,300	1,200	1,200	92.3%	

26年度	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
本院事業	1,167	1,030	1,030	88.3%	
分院事業	0	51	51	皆増	
看護師養成事業	333	319	319	95.8%	
資本的収入(4条他会計負担金)	0	0	0	-	
合計	1,500	1,400	1,400	93.3%	

8. 企業債

(1) 企業債償還額

(単位:百万円)

24年度	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
元金償還額	928	928	928	100.0%	
利子償還額	310	310	310	100.0%	
合計	1,238	1,238	1,238	100.0%	

25年度	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
元金償還額	944	944	944	100.0%	
利子償還額	295	295	295	100.0%	
合計	1,239	1,239	1,239	100.0%	

26年度	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
元金償還額	959	959	959	100.0%	
利子償還額	302	290	289	95.7%	
合計	1,261	1,249	1,248	99.0%	

(2) 企業債残高

(単位:百万円)

24年度	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
元金予定残高	19,147	19,147	19,147	100.0%	
利子予定残高	2,845	2,845	2,845	100.0%	
合計	21,992	21,992	21,992	100.0%	

25年度	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
元金予定残高	19,603	19,168	19,168	97.8%	
利子予定残高	2,818	2,741	2,741	97.3%	
合計	22,421	21,909	21,909	97.7%	

26年度	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
元金予定残高	19,931	18,373	18,329	92.0%	
利子予定残高	2,823	2,452	2,452	86.9%	
合計	22,754	20,825	20,781	91.3%	

9. 経営指標

	24年度	計画値	決算値	達成率
病床利用率	本院	87.0%	86.1%	99.0%
	分院	91.7%	90.8%	99.0%
經常収支比率	本院	100.2%	103.1%	102.9%
	分院	100.1%	101.5%	101.4%
医業収支比率	本院	95.0%	98.1%	103.3%
	分院	98.4%	99.6%	101.2%

職員給与費比率 (医業収益比)	本院	58.1%	55.7%	104.1%
	分院	71.8%	73.3%	97.9%
材料費比率 (医業収益比)	本院	25.8%	26.3%	98.1%
	分院	11.7%	12.2%	95.7%
企業債償還元金比率 (医業収益比)	本院	5.6%	5.4%	103.6%
	分院	—	—	—
企業債償還利息比率 (医業収益比)	本院	1.9%	1.8%	105.3%
	分院	—	—	—

	25年度	計画値	決算値	達成率
病床利用率	本院	87.7%	83.5%	95.2%
	分院	91.7%	86.6%	94.4%
経常収支比率	本院	100.1%	100.2%	100.1%
	分院	100.1%	99.2%	99.1%
医業収支比率	本院	94.8%	95.3%	100.5%
	分院	98.4%	94.8%	96.3%
職員給与費比率 (医業収益比)	本院	58.3%	57.1%	102.1%
	分院	73.0%	77.9%	93.3%
材料費比率 (医業収益比)	本院	25.7%	26.5%	96.9%
	分院	11.8%	11.5%	102.5%
企業債償還元金比率 (医業収益比)	本院	5.5%	5.3%	103.6%
	分院	—	—	—
企業債償還利息比率 (医業収益比)	本院	1.7%	1.7%	100.0%
	分院	—	—	—

	26年度	計画値	決算値	達成率
病床利用率	本院	87.7%	83.6%	95.3%
	分院	91.7%	90.1%	98.3%
経常収支比率	本院	99.6%	99.1%	99.5%
	分院	100.1%	106.6%	106.5%
医業収支比率	本院	94.4%	95.2%	100.8%
	分院	98.6%	97.3%	98.7%
職員給与費比率 (医業収益比)	本院	58.5%	56.7%	103.1%
	分院	73.2%	75.9%	96.3%
材料費比率 (医業収益比)	本院	25.6%	26.5%	96.5%
	分院	11.7%	12.1%	96.6%
企業債償還元金比率 (医業収益比)	本院	5.5%	5.5%	100.0%
	分院	—	—	—
企業債償還利息比率 (医業収益比)	本院	1.6%	1.6%	100.0%
	分院	—	—	—

【指標の計算式】

病床利用率＝延入院患者数÷延稼動病床数×100

経常収支比率＝経常収益÷経常費用×100

医業収支比率＝医業収益÷医業費用×100

職員給与費比率(医業収益比)＝給与費÷医業収益×100

材料費比率(医業収益比)＝材料費÷医業収益×100

企業債償還元金比率(医業収益比)＝企業債償還元金÷医業収益×100

企業債償還利息比率(医業収益比)＝企業債償還利息÷医業収益×100

経営改革委員会の評価（計画期間の評価）

【君津中央病院企業団経営改革委員会委員】

君津中央病院長、君津中央病院副院長、君津中央病院大佐和分院長、君津中央病院事務局長、君津中央病院事務局次長、木更津市市民部長、木更津市財務部長、君津市保健福祉部長、君津市財政部長、富津市健康福祉部長、富津市総務部長、袖ヶ浦市市民健康部長、袖ヶ浦市企画財政部長

経営指標に係る数値目標の達成状況

木更津市

概ね目標は達成されたものと認められる。病床利用率については、利用率の向上を図られたい。職員給与費比率の更なる適正化に努められたい。

君津市

概ね数値目標を達成しているものと認められる。更なる経営改善に努められたい。

富津市

数値目標は、概ね達成されている。計画期間内において、数値目標を下回り低下傾向にある経営指標も見受けられるので、引き続き経営改善に取り組まれたい。

袖ヶ浦市

一部、達成率の低い項目があるが、病床利用率については医師・看護師の不足に起因するものと思慮する。全体的には概ね良好であると考ええる。

企業団

概ね数値目標を達成することができたが、病床利用率、材料費比率など数値目標を下回った経営指標については、引き続き改善に努める。

I 医療機能の充実

1 人材の充足

木更津市

医師、看護師及び技師等の確保推進については、概ね目標を達成したものと認められる。今後も、一層の取組強化を図られたい。技師等の確保については、検査、診療科目の充実や病院の医療従事者全体の負担軽減に繋がったことは評価できる。

君津市

医師、看護職員確保について、目標人数には達していないが、昨年度から若干増員となっており、医師の確保については概ね達成されている。引き続き人材の充足に努められたい。

富津市

全国的な医師、看護師不足の中、苦慮されていることと推察するが、引き続き人材の確保に積極的に努められたい。また、離職防止のための対策や人材の育成、職場環境の向上を図られたい。

袖ヶ浦市

医師、看護師の不足は社会問題化しており、看護学校の定員増の効果が出るまで時間がかかる。引き続き、人材の確保に最大限の努力を払われたい。

企業団

医師の確保推進については、概ね目標医師数を達成することができたものの、常勤医不在の診療科があることから、取組を一層強化する。看護師の確保推進については、募集活動の強化及び職場環境の整備による離職防止を図り、充足に努める。

2 不足する医療機能の充足

木更津市

概ね目標は達成されたものと認められる。今後の病院事業施設整備基本計画の策定については、地域の中核病院としての機能強化と健全経営・収益強化の実現を目指すことができる計画となるよう、構成市との綿密な協議をお願いしたい。

君津市

概ね目標を達成している。今後も計画的に医療機器を備えられたい。診療棟の増築については、病院事業施設整備基本計画等策定業務の中で十分検討されたい。

富津市

目標は達成されていると認められる。医療機能の充足に当たっては、費用対効果、今後の地域の動向を踏まえ、十分な検討のうえ、構成市に協議願いたい。

袖ヶ浦市

概ね目標を達成している。今後も診療棟の増築については、必要な機能を慎重に検討されたい。

企業団

概ね目標を達成することができた。診療棟の増築については、将来的な地域の医療需要等を踏まえ、構成

市との協議のうえ、病院事業施設整備基本計画等策定業務の中で検討する。

3 新たな医療機能の拡充

木更津市

概ね目標は達成されたものと認められる。今後の病院事業施設整備基本計画の策定については、地域の中核病院としての機能強化と健全経営・収益強化の実現を目指すことができる計画となるよう、構成市との綿密な協議をお願いしたい。

君津市

医療安全の強化や小児医療の充実については、目標を達成しているものと認められる。介護老人保健施設及び回復期リハビリテーション施設の設置、手術部門の拡張については、病院事業施設整備基本計画等策定業務の中で慎重に検討されたい。

富津市

目標は達成されていると認められる。医療機能の拡充に当たっては、需要、費用対効果、今後の地域の動向を踏まえ、十分な検討のうえ、構成市に協議願いたい。

袖ヶ浦市

概ね目標を達成している。今後も計画的な整備に努められたい。なお、介護老人保健施設の設置については、地域ニーズ分析を十分に行うとともに、介護事業計画を策定する構成4市の介護保険部局と協議を行ったうえで慎重に検討されたい。

企業団

医療安全の強化や小児医療の充実については、概ね目標を達成することができた。手術部門の拡張や介護老人保健施設及び回復期リハビリテーション施設の設置については、地域包括ケアシステムを構築する中で、本分院の使命と役割を果たすため、構成市との協議のうえ、病院事業施設整備基本計画等策定業務の中で検討する。

II 医療サービスの向上

1 体制の充実

木更津市

概ね目標は達成されたものと認められる。診療待ち時間については、短縮が図られているが、更なる改善に努められたい。なお、院内自己評価「D」となった休止病床の再稼働及び包括看護体制の拡充については、人員の確保に努め目標達成を図られたい。

君津市

概ね目標が達成されたものと認められる。看護師確保を重要課題とし、休止病床の再稼働及び包括看護体制の拡充について、早期の実現に向けて尽力されたい。

富津市

概ね目標は達成されている。看護職員を目標職員数まで増員できなかったため、目標に達しない項目があるので、引き続き、人材の確保に努め、早期に目標達成を図られたい。

袖ヶ浦市

休止病床の再稼働や包括看護体制の充実については、人材の充足と同様に看護師等の確保に努め、拡充を図られたい。その他の項目については、概ね目標を達成している。災害時の医療については、地域の基幹病院として今後も協力されたい。

企業団

概ね目標を達成することができた。休止している病床の再稼働及び外来・入院の包括看護体制の拡充については、看護師の確保に努め取組を推進する。

2 施設機能の維持

木更津市

概ね目標は達成されたものと認められる。なお、医療機器の更新に当たっては、経費縮減の最大化に努められたい。今後の病院事業施設整備基本計画の策定については、地域の中核病院としての機能強化と健全経営・収益強化の実現を目指すことができる計画となるよう、構成市との綿密な協議をお願いしたい。

君津市

概ね目標を達成している。大佐和分院については、病院事業施設整備基本計画等策定業務の中で十分検討されたい。

富津市

概ね目標は達成されている。汚水経路の接続換えについては、関係機関との協議により幹線接続ルートが変更されたため、計画期間より遅れていることから、平成27年度内での工事完成を進められたい。

袖ヶ浦市

概ね目標を達成している。分院については、長期的視野に立って検討されたい。

企業団

概ね目標を達成することができた。今後、本院については、経年劣化に対応するため、計画的な施設の維持管理に努める。また、分院としての施設・機能の見直しについては、構成市との協議のうえ、病院事業施設整備基本計画等策定業務の中で検討する。

3 病院機能評価の受審

木更津市

概ね目標は達成されたものと認められる。患者満足度アンケート調査の結果は、日々の業務において、より良い病院づくりへの取組が実践できているものと評価できる。更なる向上を目指してもらいたい。

君津市

概ね目標を達成している。引き続き患者の満足度向上に努められたい。また、更なる消費エネルギー削減に取組まれたい。

富津市

概ね目標は達成されている。引き続き利用者の満足度の向上に努められたい。

袖ヶ浦市

概ね目標を達成しており、アンケートの結果も良好である。今後も引き続き、利用者満足度の向上に努められたい。

企業団

平成26年度に病院機能評価の認定を更新することができた。引き続き、患者満足度の向上を図り、良質な医療提供に努める。

III 経営効率化の推進

1 診療報酬の対策強化とDPCデータの活用

木更津市

取組の成果が確実に現れており、高く評価できる。今後も、さらに取組を推進されたい。

君津市

目標を達成している。今後も更なる取組を推進されたい。

富津市

取組の成果が増収に結びつき、評価できるところであるが、引き続き推進されたい。

袖ヶ浦市

概ね目標を達成している。今後も経営効率化を推進されたい。

企業団

概ね目標を達成することができた。今後も診療報酬の対策強化及びDPCデータの活用により、診療報酬制度に沿った病院運営を追求し、経営効率化に努める。

2 経費の合理化

木更津市

概ね目標は達成されたものと認められる。コスト意識の徹底のほか、電気料金の問題に関しては、電力小売の全面自由化を視野に入札の導入などの検討も必要ではないか。

君津市

概ね目標を達成している。引き続き経費削減に努められたい。

富津市

概ね目標を達成しているところであるが、今後も経費削減に取組まれたい。

袖ヶ浦市

光熱水費（電気使用量）を除き、概ね目標を達成している。今後も継続して経費削減に努められたい。

企業団

概ね目標を達成することができた。今後も引き続き、経費の合理化に努める。

3 未収金対策の強化

木更津市

未収金について前年度比で減額となり、成果が見られる。今後、未収金の発生防止対策を更に強化するとともに、未払い者への法的措置の実施などについても考慮されたい。

君津市

回収業務委託等により成果が上がっている。引き続き新規未払者の発生防止、回収に努められたい。

富津市

取組の成果が見られ、評価できる。

袖ヶ浦市

法律事務所への委託により効果を上げている。今後は法的措置も検討されたい。

企業団

未収金残高は年々減少し、概ね目標を達成することができた。今後も引き続き、MSWの早期介入などによる未収金発生防止及び病院職員と法律事務所との連携による未収金回収強化により、医療費負担の公平化に努める。

財務計画の達成状況

木更津市

概ね目標は達成されたものと認められる。今後も、計画的、効率的な財務執行に努め、持続可能な病院経営を図られたい。

君津市

概ね目標が達成されたものと認められる。患者数をはじめ目標を下回った部分について、引き続き経営改善に努められたい。

富津市

概ね適正に運営されている。患者数が目標を下回っているので、その対策を講じ、また必要な人材の確保に努め、更なる収支の確保に努められたい。

袖ヶ浦市

患者数は目標を下回っているものの、全般的には適切に運営されている。

企業団

概ね目標を達成することができた。診療報酬改定や消費税率の引上げなどの影響で経営状況は年々厳しくなっているが、患者数の増加及び病床利用率の向上についての取組を一層強化し、経営改善に努める。